看護学臨地実習開始前における看護学生の実習適応感と抑うつ状態との関連

○コウ ケイホウ（関西大学大学院）　　脇田貴文（関西大学）
藤岡 慧＃（関西大学大学院）

キーワード：看護学臨地実習，実習適応感，抑うつ状態

問題と目的

看護学生の看護学臨地実習（以下，実習）においての適応を考えていく場合には，他者が判断する適応だけでなく，看護学生が抱く気持ち（主観）を優先することが大切である。そこで筆者は，看護学生の実習における適応感を検討するために，実習適応感の概念検討を行った。その中で，看護学生は実習前から実習を意識し，学内とは異なる気持ちを抱いていることが示された。また，諸外国に比べ日本は，看護学生が実習の不安からうつ病の罹患率が高いことが示されている（Tung, Lo, Ho, & Tam, 2018）。以上から，本研究では看護学生の実習開始前に着目し，看護学生の実習適応感と抑うつ状態との関連を検討する。

方　　法

調査対象者　看護学生 1・2・3 年生 218 名。

質問紙　実習適応感に関してはオリジナルの実習前実習適応感尺度，抑うつ状態に関しては　CES-D の日本語版（島ら，1985）を用いて測定した。

結果と考察

実習前実習適応感尺度に関して，因子構造を確認するために因子分析（最尤法，プロマックス回転）を行った。また，各下位尺度の信頼性係数の推定値として Cronbach’s α を求めた。実習前実習適応感尺度では，「実習前の心身の不調」，「実習前のサポート資源」，「実習前の予期不安」「実習前のやりがい」の 4 因子が見出された（Table 1）。α 係数は，.69～.85 であり，尺度の項目得点の合計の平均値を尺度得点として求めた。

次に，CES-D 得点のカットオフ値を 16 点とし，抑うつ状態低・高群に分類した。実習前実習適応感の 4 つの尺度得点を従属変数，抑うつ状態低・高群を独立変数とし，t 検定を行った（Figure 1）。結果，「実習前の心身の不調」においては，抑うつ状態高群のほうが有意に高かった（$t(216)=-10.18$，$p<.01$，$r=.57$）。「実習前のサポート資源」においては，抑うつ状態低群のほうが有意に高かった（$t(216)=3.26$，$p<.01$，$r=.22$）。「実習前の予期不安」においては，抑うつ状態高群のほうが有意に高かった（$t(102)=-5.87$，$p<.01$，$r=.50$）。「実習前のやりがい」においては，抑うつ状態低群のほうが有意に高かった（$t(112)=2.96$，$p<.01$，$r=.27$）。これは，実習前において，看護学生の抑うつ状態の低・高によって実習への適応感が異なることが示された。看護学生の抑うつ状態が低いほど，実習前に看護学生がサポート資源を得られていたり，やる気がみられたりと実習適応感のポジティブな側面に関係し，実習前から心身の不調があったり，予期不安であったりするほど実習適応感のネガティブな側面に関係していることが示された。以上から，特に実習前に抑うつ状態が高い看護学生に関しては，個々の変化に注意し，個々の状況に応じた対応が必要になってくると考えられる。

Table 1　実習前実習適応感尺度の因子分析

	第1因子	第2因子	第3因子	第4因子	h2
第1因子：実習前の心身の不調（α=.79）					
普段より体調がすぐれないように感じる	.78	.01	-.17	-.03	.50
実習のことを考えると寝つきが悪くなる	.70	.02	-.08	-.05	.45
実習のことを考えると精神的に余裕がなくなる	.65	.00	.22	-.01	.63
孤独感がある	.64	-.11	.06	.05	.48
第2因子：実習前のサポート資源（α=.85）					
頼れる人が身近にいる	-.02	.91	.08	-.06	.79
私の身近には私を十分理解してくれる人がいる	-.06	.85	.00	-.02	.74
サポートが欲しい時に十分なサポートが受けられている	.02	.66	-.08	.08	.49
第3因子：実習前の予期不安（α=.73）					
実習場の看護師との関係を築くことが非常に不安である	-.08	.03	.85	-.03	.64
患者との関係を築くことが不安である	-.09	-.05	.70	.01	.43
実習がとても不安である	.28	.06	.51	.14	.50
第4因子：実習前のやりがい（α=.69）					
実習でしかできない経験を積極的にしたい	-.07	-.09	.05	.77	.56
実習に向けて，事前学習をしている時にやりがいを感じる	.08	.10	-.04	.57	.36
実習で楽しみにしていることがある	-.08	-.03	-.29	.56	.42
学内演習で学んだ看護技術を，実習で実践できるよう準備している	-.01	.01	.20	.54	.34

因子間相関	第1因子	第2因子	第3因子	第4因子
第1因子	-			
第2因子	-0.23	-		
第3因子	0.55	-0.10	-	
第4因子	-0.15	0.42	0.03	-

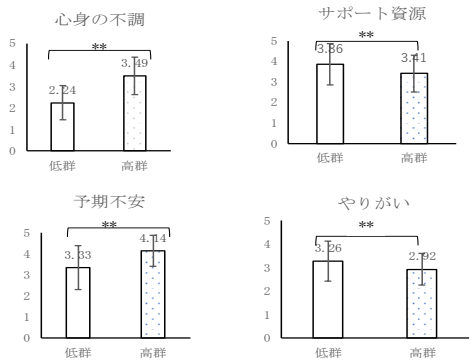

Figure 1　CES_D 低・高群による実習前実習適応感の相違

引用文献

Tung, Y. J., Lo, K. K., Ho, R. C., & Tam, W. S. W. (2018). Prevalence of depression among nursing students: a systematic review and meta-analysis. *Nurse education today*, *63*, 119-129.

島 悟・鹿野達男・北村俊則・浅井昌弘（1985）．新しい抑うつ性自己評価尺度について　精神医学，*27*, 717-723.

付　　記

本研究は，日本私立学校 振興・共済事業団の若手・女性研究者奨励金による援助を受け実施している。